

●水環境・湖沼（5） （3-C-09-1～3-C-10-2）

本セッションでは、湖沼の水質浄化に関する報告が 2 件、沈水植物再生に関する報告が 1 件、底質・底層改善に関する報告が 2 件、流入負荷削減に関する報告が 1 件行われた。

3-C-09-1 は、電解法による COD<sub>Mn</sub> の除去効果を室内実験で確認したものであり、COD<sub>Mn</sub> 除去に有効であることが報告された。実用化に向けて、エネルギー効率の検討や設計因子の明確化が今後必要であろう。

3-C-09-2 は、沈水植物の刈り取り方法が沈水植物群落の消長に及ぼす影響を水槽実験により検討したものである。パッチ状に刈り取ることが沈水植物群落の拡大に有効であることが示され、沈水植物群落の管理を行う上で興味深いものであった。

3-C-09-3 は、植生浮島の設置が動植物プランクトンや水質に及ぼす影響を現地長期実験により調査したものである。植生浮島の設置により、アオコや動物プランクトンが減少したことが報告された。現地実験に基づく貴重な調査データであり、今後の進展が期待される。

3-C-09-4 は、ダム貯水池において高濃度酸素水を水温躍層下に供給し、底層貧酸素状態の改善を現地実験により試みたものである。底質からの溶出物質の表層回帰を防ぐという観点から水温躍層を破壊することなく、酸素を供給できる利点があることが説明された。

3-C-10-1 は、中海の浚渫窪地に石炭灰造粒物を散布することによる覆砂効果を現地試験により検討したものである。石炭灰造粒物の散布により酸素消費速度や窒素・リン溶出抑制効果があり、これらの効果は覆砂による物理的な作用が主たる要因であることが報告された。

3-C-10-2 は、河川河口部に設置した人工内湖の汚濁物除去効果の評価が流出汚濁負荷量推定方法によってどのような影響を受けるか検討したものである。流入懸濁物質の汚濁物含有量の推定方法が人工内湖の汚濁除去効果の評価に比較的強い影響を与えることが示され、計画段階で人工内湖の費用対効果を評価する際に有用な知見であると考えられた。

（龍谷大学・理工学部 岸本 直之）